

草津市立矢倉小学校通信 令和3年11月1日 NO.12



～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

修学旅行／平和学習

わたしたちは、支え合い、協力し合うことを忘れません。
わたしたちは、人の気持ちや思いに寄り添える人です。
わたしたちは、命の尊さや平和の大切さについて考え続けることを誓います。

平和記念公園内にある原爆の子の像。その広場で子どもたちが誓った言葉だ。

宿泊させていただいた旅館が公園に隣接し、原爆ドーム近くであったため、朝、一番に平和公園を訪れることができた。平和学習で公園を散策する他の学校もなく、心静かに黙とうし、折り鶴も供えさせていただいた。子どもたちの歌う「アオギリの木の下で」の声がしんとした公園に響いていく。前日に引き続き、秋晴れのさわやかな空気に包まれてのセレモニーだった。

平和公園には、いくつもの慰霊碑がある。唯一、子どもたちの発案で建てられたのが、原爆の子の像だという。ボランティアガイドさんからは、原爆で亡くなった大切な友だちのため、その慰霊のため。そして、二度と戦争を起こさない世界にするためにと、子どもたちが、自分たちで融通できるわずかな金額、5円、10円の募金をよびかけ、できあがっていったといういきさつが語られた。

ガイドさんが語ってくださるお話には、一連の平和学習のまとめのような、そしてこれからは、われわれ大人たちといっしょに平和を求め、歩んでいこうと背中をそっと押してくださる、そんな力がある。修学旅行2日目の朝から、原爆が投下された直下の場を、自分の足で実際に歩き、資料館で焼け跡から集められた事物、画像や動画、綴られた言葉などに触れることができたことが、修学旅行に行くまでに学習してきたことの理解をさらに深めてくれる。

わたしたちは、支え合い、協力し合うことを忘れません。
わたしたちは、人の気持ちや思いに寄り添える人です。
わたしたちは、命の尊さや平和の大切さについて考え続けることを誓います。

この平和の誓いに謳われていることは、あたりまえのことであり、願いを形にあらわすための小さな取り組みである。すごい力をもった偉い人がやってくれるものでは決してない。子どもも大人も、私たち一人ひとりの力は確かに小さい。しかし、そこに託された願いが深く、大きなものであり、多くの方たちからの共感と呼び込むことができれば、よりよいこと、より大きなものが生まれていく、その可能性を示してくれている。

矢倉小学校がずっと大切にしてきた修学旅行を今年も実施させていただいた。多くの方からの願いが寄せられ、ご心配、お世話があったからこそ実現したものと受けとめさせてもらっている。

心から感謝いたします。

校長 大林道範